

1人になっていました。今後は古文書の読み方等も学びなんとか教授の講義について行き度いと思えました。

5月28日は東海道ネットワークの会21、第54回例会が実施されました。テーマは、駿河三宿“渡り鳥”シリーズ～丸子、岡部、藤枝～であります。例会の企画した行程に従って探訪します。10時静岡駅集合、駅前のビルの壁には「女城主井伊直虎の里へようこそ」の幕が掲げられ、NHK大河ドラマの主人公直虎の人気で盛り上っております。総勢25名を乗せた小型バスは薫風爽やかな駿河路を走ります。

①柴屋寺別名吐月峰

戦国時代の永正3年(1506)連歌師宗長がこの地に営んだ草庵柴屋軒を前身とします。庭園は国名勝、国史跡で銀閣寺の庭を模して宗長自身が作庭しました。竹林は京嵯峨から移植。方丈より見た庭園は山号にもなっている北西の天柱山を借景に取り入れた西側の部分と茶室をはさんだ北側の枯山水の庭から構成されています。駿河の今川氏に仕えた宗長は氏親の依頼を受けて、甲斐武田氏との和睦交渉に当たるなど多彩な行動でも知られておりました。

②旅籠柏屋

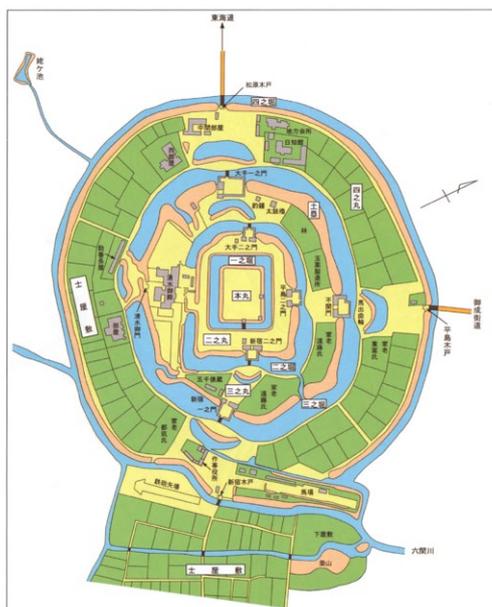
岡部宿に残る貴重な街道遺産。柏屋を営んだ山内家は旅籠と質屋を兼営し、田畑も広く持って代々問屋と年寄など岡部宿の役人を務めました。建物の床面積は百坪で、文政と天保の岡部大火で類焼しましたが天保6年(1835)再建、今でも当時の面影を残す貴重な建物で、国登録文化財に指定されています。当日は、この敷地内の一祥庵にて、昼食後、総会が実施されました。

③田中城跡

今川氏の武将一色伸茂の築いた徳一色城を攻め取った武田信玄が田中城と命名したことに始まります。国内では類のない同心円形の縄張りを持つ平城で、亀田城とも呼ばれました。長篠の戦以降、徳川、武田の度重なる攻防でも、この巧みな縄張りによって落城しませんでした。「人は石垣人は城、情けは味方仇は敵」と謳った武田氏の面目でしょうか。徳川幕府の成立以降、酒井忠利が一万石で城主として家康専用の「田中御殿」として体裁を整えました。家康は駿府に隠居しますと、頻繁にこの田中御殿を利用し



■幕末のころの田中城復原図



※「田中亀城之図(大慶寺蔵)」、「田中城内外之図」、明治時代以降の地籍図・測量図および航空写真に現れた地割などを元に復原したものです。



ての鷹狩りを行いました。元和2年(1616)この城で腹痛を催し、駿府城に戻り4月に逝去しました。博学な小山会員によれば胃癌ではなかったか、とのこと。史上初の依願退職、と落ちまで付いておりました。

④蓮華寺池公園

慶長18年(1613)この地の若王子村、市部村、五十海村の村民が総出で掘り上げた灌漑用の用水池。現在は藤枝市の市民公園として桜、石南花、躑躅、菖蒲、藤の花が次々に咲きます。

⑤蓮生寺

建久7年(1196)、『平家物語』敦盛最期の熊谷次郎直実(法名蓮生)の開山

⑥若一王子神社

天平2年(730)創設、後三年の役(1083-87)で八幡太郎義家が奥州へ下るときに、この神社に立ち寄り、松の木に藤が絡まって見事な花を咲かせていたのを見て「松に花咲く藤枝の一王子宫居ゆたかにいく千代をへん」と詠んだのが「藤枝」の地名の由来となりました。

⑦大慶寺

建長5年(1253)日蓮上人が叡山や奈良の寺で修行を終えて安房の国に帰る途中この地に一泊。天文年間(1532-52)大円院日達がここに止宿、近在の信者を説いて堂宇を建立。境内の松は樹齢750年。手島會長の誼で新茶をご馳走になり、住職氏から有難い法語を賜りました。

⑧月見里神社の楠木

目通り幹囲9.5m、樹齢300年。

⑨志太郡衙跡

奈良時代から平安時代にかけての古代駿河の国志太の郡家(郡衙)の遺跡。昭和52年、住宅団地の造成の途中発見される。発掘調査により建物三十棟、門、板塀、井戸、道路跡などの遺構で古代の郡衙(地方行政機構)の構造を示すもの。

東海道ネットワークの会21の次回例会は神奈川宿-大山(雨乞いの神)詣です。

古代史、近代史の学習成果も報告出来ればと念じております。



大慶寺の松



郡衙跡

